

展覧会名：風の岬

会期：平成21年2月28日（土）～6月28日（日）

概要：「冷たい風が吹き抜ける それは最果てのイメージ 林の中 森の中 やがて吹雪になって 白い大地が揺れる 関口さんの作品が そこにあった」（東山魁夷）

北海道の厳しい自然のなかに美を求めた関口は、自ずと極限の地へと足を向けた。その作品には、東山魁夷から贈られた言葉に示されるとおり、しばしば激しく吹き荒れる風が描かれる。

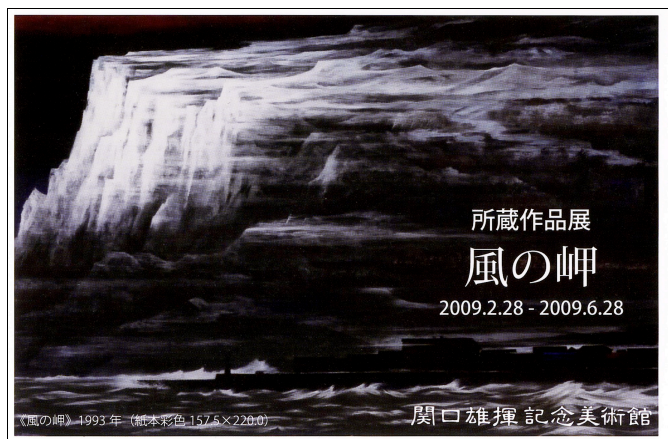
とりわけ風雪とともに、険しい断崖、入り組んだ海岸線、強い波の織りなす岬の光景は、関口が好んで描いた題材のひとつだ。知床や礼文の海岸線を猟歩し、あまりの過酷さに時には命の危険を感じながら、より厳しい光景を求めたという。

本展では岬の光景が描かれた作品を展示し、関口が見いだした、北海道の美の典型のひとつを紹介する。

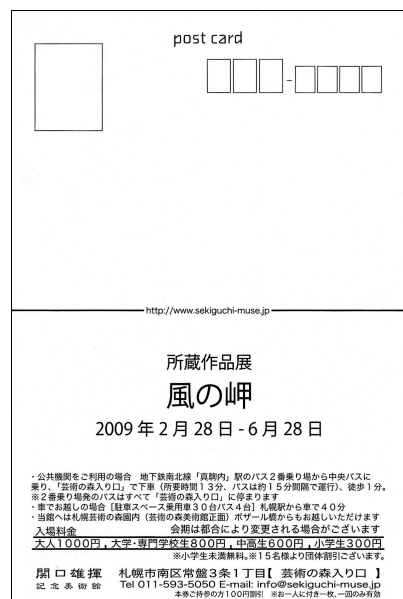
同時開催：関口雄揮スケッチ展 十勝平野の春（第二展示室）

概要：十勝は関口にとって縁の深い土地だ。1973年、関口は地元の名士である紫竹昭葉氏の招きに応じて来道。帯広市を拠点に遊歴をはじめ、十勝地方を巡り、やがて全道へと足を伸ばしてゆく。

関口にとって十勝地方での風景体験は、その後、生涯を通じて取り組む北海道を題材とした作品制作の原点となった。多くの作品で十勝を題材としたほか、手つかずの自然ではなく、自然と人間の営みが一体となった風景を描くという制作の基本的な方針が、ここで確立されたのである。



フライヤー表



フライヤー裏